

相手を気遣う心が生んだ

ピクトグラム

戦後日本の一大デザインプロジェクトとしての前回の東京五輪

1964年に行われた東京オリンピック・パラリンピックは、アジア（有色人種国家）で開かれた初めての五輪大会です。アジアやアフリカで植民地の独立が相次いだこともあり、参加国は過去最高となりました。歴史的には、戦後急速な復



ピクトグラムの一例

興をとげた日本が、再び国際社会の中心に復帰するシノボル的なイベントです。当時の日本では、言葉が

通じない外国人向けの案内板が十分には整備されていませんでした。そこで多くの若手デザイナーが集められ、シンボルマークやポスター、表彰状、聖火トーチなどが作られました。その一つが「ピクトグラム」です。

ピクトグラムは、一般に「絵文字」「絵単語」と呼ばれ、何らかの情報や注意を示します。日本国内の外国人などが、文字ではなく視覚的な絵だけで情報を理解できるようにするものです。現在、国際試合の会場によく目にする競技種目のピクトグラム（陸上競技や水泳、バレーボールなど20種）や、各種施設・設備のピクトグラム（シャワー、食堂など39種）は、このと

き作られました。このうちトイレのピクトグラムは、現在、世界各国で使用されています。

著作権放棄により

全世界へ広がる

このとき作られたピクトグラムは、「社会に還元すべきだ」という考えから、デザイナーの著作権放棄が提案されました。それまで必死にピクトグラム作りに取り組んだ若手デザイナーたちが反対するかと思われましたが、反対することなく、進んで著作権放棄に署名したそうです。これによって今日、ピクトグラムは日本だけでなく、全世界で案内表示として使われるようになりました。

ピクトグラムは4年後のメキシコオリンピックのときに追加されるなど、現在も各大会に合わせて作成され続けています。

日本人の根底にある「相手を気遣う心」から生まれたピクトグラム。しかし時代の流れとともに、外国人



平成30年5月現在、変更が検討されているピクトグラム

にとつて分かりにくいものができてきました。そこで経済産業省は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、誤解を招かないように国際規格に合わせることを発表しました。また、「海外発行カード対応ATM」や「無線LAN」を利用できる場所、イスラム教の「祈祷室」など、約40のピクトグラムを追加したいとしています。

ピクトグラムが普及すると、日本人の伝統的な精神である「相手を気遣う心」が世界中に広がることにもつながります。この心を受け継ぎ、2020年の東京オリンピックではどのようなアイデアやデザインが生まれるのか、今後も注目していきたいものです。

近年、さらなる国際化に向けて、外国人の人権・文化を考慮した「おもてなしの心」を体現化しようとする試みがあります。私たちも他者への温かい思いやりを持ち、日ごろからみんなが過ごしやすいように一人ひとりが努力したいものです。



問 教育委員会事務局

人権・同和教育係

☎0943・32・0093 (内線313)

広川町に残る城と館跡

長延村山王山城と城ノ尾城

その1

長延村の両城は、薩摩島津の北上軍に備えて構えられた

天正6年（1578）の日向耳川の戦で、豊後の大友義鎮（宗）が薩摩の島津義久に、大敗を喫したことはすでに記しました。

それから8年後の同14年春、いよいよ九州全域の覇権を手中に収めるため、島津の大軍が北上します。島津勢は大抵、現在のJR鹿児島本線沿いと日豊本線沿いの2つのルートで北上しますが、広川谷には前者のルートで来襲しました。

6月には西牟田家親が拠点とする城島城を攻め落とし、周辺各地を攻め、広川谷にも危機が迫ります。

『家勤記得集』（稲員孫右衛門安則記）には、

七月朔日薩州の大軍、上広川に寄せ来たるの風聞あり。古賀館は肥軍（肥前龍造寺勢）が再三攻むると雖も、稲員安守が早速これを追い払う。然りと雖も、要害としては宜しからぬ故、長延村山王山城の両所にこれを築きて城郭と為し、敵が寄せ来たるの時、これに楯籠りてこれを防ぐ云々

と記されています。このことから、長延村の両城が、島津勢の来襲に備えて堅固に構築されたことが分かります。稲員安守は島津勢の来襲に先立ち、妻子ら一族を逆瀬谷や清楽村、周辺の縁者のもとに逃がし、古賀館には自ら火をつけて退路を断ちます。山王山城と城尾周囲の尾根

筋には堀切を設置し、谷筋には大石を抱かせた振柵を設けます。また、敵が攻め来ると思われる道筋には、大木を切り倒した逆茂木や、竹やぶを切り払った刀簇を設けたといえます。

このように堅固に守りを構えた所に、同月3日、島津軍が来襲します。所々の村家に火を放ち、道筋に設けた逆茂木を挽き破り、あちこちから攻め登って来ました。

山王山城には稲員安守・安直父子ら一族が立てこもり、城ノ尾城には村内や近くの里から集まった野武士が立てこもり（『家勤記得集』）ました。

攻防戦は6時間に及ぶ

攻防は激戦となり、午刻（現在の12時）から酉刻（18時）に及びました。城中の兵は粉骨防戦するも、討ち死にするものや負傷するものも多く、ついに落城します。

安守は「命を保ち向後（今後）を見るべき」として、城中の小屋を焼き、背後の山か

ら東福寺谷本谷・萩尾山を越えます。その夜は逆瀬谷で休息し、翌未明に北河内山を越え、豊後国多久の山中に蟄居（謹慎）した、と『家勤記得集』は伝えます。

島津勢はこの余勢を駆り、翌4日には甘木館を攻めています。

（広川町郷土史研究会）



城ノ尾城跡を西方から望む

広川町古墳資料館だより

石人山古墳の直弧文と同じく、浮彫風の彫刻がされている装飾古墳があります。熊本県上天草市の「長砂連古墳」です。阿蘇凝灰岩の板石で箱型に囲まれた石室の側壁に、直弧文が半肉彫りされています（写真）。もとは石材が露出していましたが、1975年に墳丘が復元されました。

この古墳が位置する天草半島は、良質な砂岩の産出地です。直弧文で有名な岡山県の千足古墳の石障にも、この天草砂岩が使われています。

近くには「せんぞく」という名の土地もあり、古墳時代の交易ルートにも思いをはせることができます。

↓長砂連古墳の石室(①)と石室の側壁に刻まれた直弧文(②)



SDGs (持続可能な開発目標)とは、国連で日本を含む全世界が同意した2030年までに達成すべき目標です。

ひろかわSDGsプロジェクト

エス ティー ジー ス

SDGs:目標11「住み続けられるまちづくりを」

達成のために広川で頑張っている人・団体 → 「消防団」

「消防団」は消防署で勤務する常勤の消防職員とは異なり、非常勤特別職の地方公務員です。火災や大規模災害の発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、地域での経験を活かした消火・救助活動を行います。

地方公務員と聞くと、仕事として所属しているように感じますが、実際は本業とは別に活動しています。

団員の地域への愛情と自主性に支えられている活動であり、そのような意味では「有償ボランティア」の一種と言えます。

消火・救助活動はもちろんですが、最近では女性消防団による独居者の家庭訪問など、多岐に渡る分野でまちづくりを支えています。

11 住み続けられるまちづくりを



目標11の活動の一つに「災害に対するレジリエントなまちづくり」があります。「レジリエント」というのは、回復力や弾力性という意味です。

例えば、大きな災害があった場合、誰かが助けてくれるのを待つだけでなく、被災者自身が立ち上がる力を日ごろから備えることが、地域の回復力や弾力性につながります。

有事のときはもちろん、普段から住民が主体的に参加し、防災に関わっている消防団は、レジリエントなまちづくりの好事例だといえます。



国際理解教育推進員
糴広大

より深く知るために、このようなキーワードで検索してみましょう。

レジリエント

検索

仙台防災枠組み

検索



広川文芸

さつき・盆栽・花展

5月19日(土)と20日(日)の2日間、吉常区公民館で、さつきや盆栽、花の展示会が開催されました。好評だった昨年に引き続き行われたもので、吉常区の住民の皆さんが大切に育てた作品が、数多く出展されました。

館内では白やピンク、赤など色鮮やかなさつきのほか、松や梅、シバの盆栽など、あまり目にする機会がないようなものも展示。訪れた人はその美しさを語り合ったり、出展者に育て方のコツを尋ねたりしていました。



先月号の広川文芸に誤りがありました。関係者の皆さまへ多大なご迷惑をおかけしましたこととお詫びして訂正します。右作品の団体名[誤]広川短歌会⇒[正]ひろかわ俳句会、左作品の団体名[誤]広川短歌会⇒[正]櫻の会